

日本国際文化学会 第9回(2010年度)全国大会

2010年7月3日(土)・4日(日) / 東海大学札幌キャンパス

開 催 要 領

*参加申込み

ご参加の方は、同封のハガキに必要事項をご記入の上、6月4日(金曜)[必着]までに、実行委員会(東海大学)へご返送ください。

大会参加費は、同封の「郵便振替用紙」 加入者名:日本国際文化学会 / 口座番号:02700-5-79704 で事前にお支払いください。お弁当や情報交換会をお申込みの場合、その費用も併せてご入金ください。

上記の郵便振替口座に、他の金融機関(銀行など)からも入金できます。その場合には ゆうちょ銀行 加入者名は同上 店名(店番)「二七九(ニナナキュウ)店(279)」 種目「当座」 口座番号「0079704」に入金手続きをお願いいたします。

*大会全般に関するお問い合わせ

大会に関するお問い合わせは、[東海大学札幌キャンパス国際文化学部大形利之研究室]までお願いいたします。

大形研究室

電話:011-571-5111(内線456)

メール:oogata@tspirit.tokai-u.jp

[件名に「日本国際文化学会」と入れてください。]

(1)開催日時・場所

日時:2010年7月3日(土)・4日(日)

会場:東海大学(札幌キャンパス) / 005-8601 北海道札幌市南区南沢5条1丁目1-1

(2)大会プログラム

大会1日目:7月3日(土)

09:00~11:00 自由論題(A~E) / N棟

[詳細は下欄(11)]

11:15~13:15 共通論題(1~3) / N棟

[下欄(12)]

13:45~14:45 総会・講演 / 国際交流会館マルチメディアホール

講演:松前紀男氏(東海大学副理事長・元学長)「国際文化学部の源流を見る」

15:00~17:30 **公開シンポジウム:地域から「国境」を穿つー越境する文化ー**

(会場:国際交流会館マルチメディアホール)

コーディネーター:小坂洋右氏(北海道新聞編集委員)

パネリスト:

大泰司紀之氏(北大名誉教授):

自然生態系は「中間ライン」・国境を超える

川上淳氏(札幌大学文化学部教授 / 前・根室市歴史と自然の資料館学芸員):

越境する文化・アイヌ民族(1)

北原次郎太氏(北大アイヌ先住民研究センター准教授、前・白老アイヌ民族博物館学芸員):

「越境する文化・アイヌ民族(2)」

討論者:白石さや氏(東京大学教授)

渡部裕氏（道立北方民族博物館 学芸員） [下欄（13）]
18:00～20:00 情報交換会 / N棟2階「学生食堂」 [下欄（5）]

大会2日目：7月4日（日）

09:00～11:00 自由論題（F～J） / N棟 [下欄（11）]

11:15～13:15 共通論題（4～7） / N棟 [下欄（12）]

13:45～15:30 フォーラム＜「国際文化学部」教育の役割と課題＞ / マルチメディアホール

司会：熊田泰章（法政大学教授）

パネリスト：松田 凡（京都文教大学教授）

岩野雅子（山口県立大学教授）

平野健一郎（東京大学名誉教授・早稲田大学名誉教授）

常任理事会・理事会：7月2日（金）18:30～20:30 / 札幌ガーデンパレス

札幌ガーデンパレス：<http://www.hotelgp-sapporo.com/contents/access/index.html>

060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目

TEL 011-261-5311 FAX / 011-251-2938

地下鉄南北線さっぽろ駅10番出口より徒歩約5分（道庁南側）

（3）大会参加費

大会参加費：大会参加費は、2000円（大学院生・学部生は1000円）です。

支払い方法：大会参加費については、同封の「郵便振替用紙」にて事前にお支払い下さいますよう、皆さまのご協力をお願い致します。

（4）昼食

お弁当のご注文：ご希望の方には、お弁当（1食800円・お茶付）をご用意いたします。お弁当を注文される方は、同封のハガキの「昼食注文欄」に丸印（ ）を付けた上、同じく同封の「郵便振替用紙」にて弁当代金を事前にお納め願います。

学内の食事営業：土曜日のみ学内の食堂が営業しています。日曜日は、学内での営業はありませんので、事前注文のお弁当をご利用ください。

（5）情報交換会

日時・場所：7月3日（土）18:00～20:00、学内「学生食堂」で開催いたします。

会費：5000円（大学院生・学部生は3000円）

申込み：ご参加の方は、同封のハガキの「懇親会欄」に丸印（ ）を付けられた上で、同じく同封の「郵便振替用紙」にて会費を事前にお納め願います。

（6）託児サービス

お子様ご同伴の方に、子育て支援グループによる出張サービスをご用意いたします。費用は利用者負担です。同封のハガキにてお申し込みください。

料金：0才児 - 1対1対応、1時間につき 1500 円程度。

1才児以上 - 幼児3人につき、担当者1名、1時間につき 1500 円程度。

担当：子育て支援グループ「グルんぱ」(連絡先：山崎 又は こば 09048781515)

(7) エクスカーション

以下のエクスカーションに参加することができます。

「7月4日出発：1泊2日旭山動物園・富良野・美瑛ツアー」ご参加される皆様へ

東武トラベル㈱札幌支店

担当：加藤 久幸

陽春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。7月4日発の旭山動物園ツアーにつきまして以下のご旅行日程において催行する予定でございます。皆様ふるってお申し込みください。多数ご参加されることをご希望しております。

旅行日程：

7月4日(日) 貸し切りバスにて旭川へ移動

東海大学札幌キャンパス 16：00 頃発 ホテル 18：20 頃着 *ご夕食各自にて
ホテル宿泊先：旭川ターミナルホテル(旭川駅直結) 1名様1室利用 朝食付

7月5日(月) 貸し切りバスにて終日移動

ホテル 8：45 頃発 旭山動物園 9：30 頃着 *着後、旭山動物園見学 *昼食各自にて
旭山動物園 12：00 頃発 富良野・美瑛観光 旭川空港 16：00 頃着

*旭川空港到着後の飛行機接続便は JAL1112 便 旭川 羽田 (予定) 17:05 18:50 がございます。

*1泊目のご夕食代と2日目の旭山動物園のご昼食代はご旅行代金に含まれておりません。

*2日目の旭川空港から羽田空港までの航空運賃はご旅行代金に含まれておりません。

上記日程による旅行代金：お一人様：17,000 円(諸税込み)

催行最少人数：20 名様以上

旅行代金に含まれるもの：貸し切りバス代、ホテル代1泊分(朝食付) 旭山動物園入場料

上記旅行日程にてお申し込みお受けします。

お申し込み方法及びお問い合わせ先：[Eメール](mailto:nagayukiatkato@nifty.com)にてお申し込み・お問い合わせ、お願い致します。また、携帯 090-3890-1439 にてのお問い合わせもお受けしております。

Eメール：nagayukiatkato@nifty.com 東武トラベル 札幌支店 加藤 久幸まで
お支払方法：銀行振込みまたは学会時に集金予定(変更の場合もあります。)

お申込み期限と お支払い期限： 申込期限 6月25日(金) 支払期限 7月2日(金)

銀行振込み先：北洋銀行 札幌駅南口支店 口座名：東武トラベル㈱札幌支店

普通預金 口座番号：3894830

*お振り込み手数料はお客様ご負担となります。ご了承ください。

東武トラベル札幌支店 住所：〒060-0002 札幌市中央区北2条西3丁目敷島ビル6階

営業時間 9：30～18：00 (土、日、祝日休み) 担当：加藤・携帯 090-3890-1439

電話：011-221-6781 F A X：011-281-5205

旅行企画・主催：東武トラベル㈱札幌支店

(8) 東海大学への交通手段

新千歳空港から JRで札幌駅へ

JR札幌駅から地下鉄に乗り換え (南北線真駒内方面行)真駒内駅 下車
地下鉄真駒内駅9番バス乗り場 (東海大学行き)(200円)

	時刻表
7時	07 21 45
8時	00 23 45
9時	03 24 47

地下鉄真駒内駅からタクシー利用の場合、1500円前後かかります。

新千歳空港から直行バス(北都交通)で地下鉄真駒内駅へ

ANA到着口前 バスのりば23番 1時間に2本(20分と50分発)

JAL到着口前 バスのりば15番 1時間に2本(22分と52分発)

ただし、夜は19時まで。詳しくは、空港内北都交通バスカウンターにお問い合わせください。

北都交通時刻表 http://www.hokto.co.jp/a/airport_index.htm

(9) 帰り：新千歳空港への交通手段

直行バス

帰りの空港へは、アパホテル(東海大学から約2Km)から北都交通の直行バスが出ています。

1時間に2本(00分と30分発)あり、最終バスの時刻は16:30となります。

アパホテルまではタクシーをご利用下さい。

タクシー電話番号：011-572 6000(寿ハイヤー)、011-571-8421(定山溪観光交通)

タクシーを呼ぶ際には「正面玄関前」とご指定下さい。

JR

(バス)東海大学前 地下鉄真駒内駅、(地下鉄)南北線真駒内駅 さっぽろ駅、(JR)札幌 新千歳空港
時刻などの詳細については、当日会場受付前に掲示します。

(10) ホテルの手配

各自手配願います。ホテルは札幌市内中心部に多数ございます。

(11)大会プログラム「自由論題」

【報告者へのお願い】

報告時にパソコンをご使用の方は、ご自身のパソコンをご持参の上、自由論題セッションが始まる前に、教室内のプロジェクターに接続して、必ず動作確認を済ませてください。

報告当日にレジュメを配布される場合、お一人60部ずつ、ご自身でコピーしてお持ち下さい。

第1日目：7月3日(土)09:00~11:00/N棟

[09:00~09:30/ 09:30~10:00/ 10:00~10:30/ 10:30~11:00]

[A] 文化間対話(司会：岡 眞理子)教室：N208

- (9時30分・より開始)

中村美帆(東京大学): EU文化政策における理念と実践 - ヨーロッパ年「文化間対話」を事例として -
土谷岳史(高崎経済大学): EUにおける文化間対話(intercultural dialogue)とデモクラシー
稲木徹(中央大学): 国連システムにおける「文化間対話」の実践 - 国連・ユネスコを中心に -

[B] 開発(司会：大形利之)教室：N209

- (9時30分・より開始)

矢部千尋(トロムソ大学): 文化の観点からみる対外開発援助 カンボジアにおける日本とノルウェーの事例比較研究
高見早苗(酪農学園大学): 日本のNGO/FTOからみた消費者の社会的責任に関する一考察 フェアトレードコーヒーのサプライチェーンを事例として
鳴原敦子(東北大学): アマルティア・センの「自由」観と開発政策

[C] 中国・歴史(司会：寺田元一)教室：N309

- (9時30分・より開始)

張雷(東海大学): 中国の結社文化と「黒社会的犯罪組織」
山本一生(東京大学): 文化戦略としての大学設置をめぐる日中対立 1920年代前半の青島商科大学構想と私立青島大学設立をめぐる
李潤沢(法政大学): 教育権回収運動期における関東州の中国人教育について

[D] 日韓文化(司会：木下資一)教室：N305

鄭榮蘭(早稲田大学): 韓国の文化政策における日本文化の開放及び新韓流時代への展望
チェ・ユンジョン(早稲田大学): 日本における韓流ファンダム分析による日本女性の大衆文化受容について ファンダムの中の中高年女性の年齢認識を中心に
金恵媛(山口県立大学): 大学生の日流・韓流受容についての考察
柳圭相(関西学院大学): 説話文学における隣国認識の継承と複合性

[E] 交差する異文化(司会：熊田泰章)教室：N211

澁谷鎮明(中部大学): 韓国のガイドブックに見る日本観光地の空間的選択

守屋貴嗣(法政大学): 丹下健三における「環境」意識 「大東亜建設記念營造計画」を中心に
柏木貴久子(関西大学): 食のグローバル化と文化理解 ドイツにおける日本食ブームを例に

第2日目：7月4日(日)09:00~11:00/N棟

[09:00~09:30 / 09:30~10:00 / 10:00~10:30 / 10:30~11:00]

[F] 中国・現代 (司会：馬淵 仁) 教室：N305

胡曉麗 (龍谷大学): 異文化におけるキャリア形成 中国人留学生のライフコース

柳傑 (龍谷大学): 中国人 (在日) 留学生の就職意識 日本人学生との比較

趙貴花 (東京大学): 「若者の移動とアイデンティティの構築 - 韓国における中国朝鮮族の事例 -

[G] 歴史 (司会：若林一平) 教室：N209

飯森明子 (常磐大学): 昭和初期の日米協会 交流活動の発展とジレンマ

山内晴子 (早稲田大学): 異文化共存のための朝河貫一の歴史学

大和裕美子 (九州大学): 1990年代以降の日本地域社会における戦争責任論

韓日歴史和解へ向けた草の根市民の取り組みから

佐藤東洋 (法政大学): 状況主義に対する石橋湛山の批判

[H] イスラム (司会：松居竜五) 教室：N309

- (9時30分・より開始)

生田篤 (九州大学): 「福岡モスク」建設過程の調査を通じた「多文化共生」研究の文化概念批判

大形利之 (東海大学): インドネシアのテロリズム - テロ事件と国軍による治安強化をめぐる議論に関する考察 -

[I] 比較文化・教育 (司会：木原誠) 教室：N211

小西正雄 (鳴門教育大学): 相対と絶対のはざま - 教育現場に流布する2つの<うた>を題材として -

矢内弘美 (東海大学): コミュニケーション可能な場作り-ワールド・カフェで拓く学生相互の参加型授業風景-

飯山雅英 (芸術・文化企画): 『フランスの浮世絵師: アンリ・リヴィエール展』の実施を通じた日仏美術交流の新たな可能性の提案

[J] マイノリティ (司会：三木原浩) 教室：N208

塩崎公靖 (法政大学): アルゼンチンにおけるバスク文化センターの設立と変容 (1882~1930)

山脇千賀子 (文教大学): ネットワークとしてのウチナーンチュ ペルーにおける音楽を媒介にした 社会性 の分析を事例に

松尾隆司 (龍谷大学): 在日南米日系人研究 経済危機以降の南米日系人労働者の就労と生活について

野上恵美 (神戸大学): 難民からマイノリティへ 神戸市長田区のケミカルシューズ工場の現場から

(12) 大会プログラム「共通論題」

【報告者へのお願い】

報告時にパソコンをご使用の方は、ご自身のパソコンをご持参の上、共通論題セッションが始まる前に、教室内のプロジェクターに接続し、必ず動作確認を済ませてください。

報告当日にレジュメを配布される場合、お一人60部ずつ、ご自身でコピーしてお持ち下さい。

第1日目：7月3日(土) 11:15~13:15 / N棟

- [1] 日中韓三国にみる文化の相違を超えた交流 教室：N208
鈴村裕輔(法政大学): 企画の趣旨と発表の概観
岩谷めぐみ(立教大学): 日本の江戸時代前期と韓国の朝鮮時代前期における教化政策
陳毅立(法政大学): 日本における黄宗羲研究の落とし穴 理気哲学観を中心に
鈴村裕輔(法政大学): 「天」の思想の理解からみる江戸時代末期における国家論の特徴
- [2] 多様な「共生」を解き明かす その2: 国際文化学をめざすもの 教室：N211
斎藤文彦(龍谷大学): 趣旨説明
嵩満也(龍谷大学): 「ぐうしょう」と「ともいき」と「きょうせい」: 仏教的「共生」観
橋爪博幸(桐生大学): 自然と社会の共生の再現可能性: 南方熊楠と神社祭祀反対運動から
鈴木滋(龍谷大学) 自然科学の「共生」と社会進化論?: 「共生」概念と霊長類学における文化概念
コメンテータ: 平野健一郎(早稲田大学・東京大学名誉教授)
- [3] 日本における反欧米思想の系譜 教室：N209
スヴェン・サーラ(上智大学): Stretching Asia - 近代を超克するアジアとは?
木下宏一(九州産業大学): 観念的アジア主義の理論と限界 中谷武世と大亜細亜協会
ロジャー・ブラウン(埼玉大学): 安岡正篤の「東洋的牧民思想」と内務官僚

第2日目：7月4日(日) 11:15~13:15 / N棟

- [4] 東海大学国際文化学部・現場主義への挑戦-座学からフィールドへ- 教室：N305
川寄一彦(東海大学国際文化学部教授): 現場主義への挑戦-座学からフィールドへ-
生越玲子(ホイスコーレ札幌): 「ホイスコーレ札幌開校までの軌跡」(仮題)
堀川真広(東海大大学院): 「カルチャーナイト・インターンシップとフィールドワーク」(仮題)
- [5] 在日/日本人-その断絶と疎通、きしむ境界線(いわゆる「日韓合併」100年の節目に)- 教室：N309
吉岡剛彦(佐賀大学): かれらが外国人参政権に反対する理由(わけ)
土屋明広(岩手大学): 隠蔽される『在日/日本人』、表出と克服の試み
山本 弘(別府大学): 『半島』と『列島』における『断絶』と『疎通』の歴史
コメンテータ「在日の立場から」
- [6] アジアの学校教育における「周辺の」教育活動の歴史的展開とその意義 教室：N211
司会: 山本一生(東京大学)
稲井智義(東京大学): 石井十次の「児童救済思想」における学校観の展開
化濱(東京大学): グローバル・カルチャーの移動と受容 - 中国におけるコスプレグループの形成と若者文化の生成
篠崎宏則(東京大学): 社会的文脈としての「塾」構造の内実 - 子どもたちにとって「塾」の意味-
堤ひろゆき(東京大学): 旧制中学校校友会における活動の研究
- [7] リベラル・ナショナリズムと文化の再検討-グローバル化の視点から- 教室：N209
司会: 長谷川 一年(島根大学)
白川 俊介(日本学術振興会特別研究員): リベラル・ナショナリズム論における多文化共生世界の構想 - 規範理論的視座から
伊藤 豊(山形大学): リベラル・ナショナリズムとしての移民同化論 アメリカ合衆国の場合
萩原 稔(同志社大学): 中国におけるリベラル・ナショナリズムの源流: 辛亥革命期における言説を中心に

(13)大会プログラム「公開シンポジウム」

<地域から「国境」を穿つー越境する文化ー>

【日時】 2010年7月3日(土) 15:00~17:30

【場所】 国際交流会館 マルチメディアホール(1F)

【コーディネーター】 小坂洋右氏(北海道新聞編集委員)

【パネリスト】

大泰司紀之氏(北海道大学名誉教授): 自然生態系は「中間ライン」・国境を超える

北方4島を知床(世界自然遺産)の延伸(知床~ウルップ流氷南限地域生態系)としてとらえる。「地球に残された最後の秘境」をどう保全するか。

関連図書:『知床・北方四島=流氷が育む自然遺産』(岩波新書 カラー版)

川上淳氏(札幌大学文化学部教授、前・根室市歴史と自然の資料館学芸員): 越境する文化・アイヌ民族(1)
千島列島史、北方史、近世日口関係史

北原次郎太氏(北大アイヌ・先住民研究センター准教授、前・白老アイヌ民族博物館学芸員): 越境する文化・アイヌ民族(2)

アイヌ民族精神史、文化史(言語、芸術)

【討論者】

白石さや氏(東京大学教授)

関連図書:ベネディクト・アンダーソン著/白石隆・白石さや訳『定本 想像の共同体』(書籍工房早山)

渡部裕氏(道立北方民族博物館 学芸員)

【趣意】

「国境」は人為的に線引きされたものである。近代国家の成立とともに、国家という共同幻想と共にナショナリズムがそのイデオログとなっていった。それによって国家は、絶対的な存在として、国家の成員の意識の深奥に位置づけられていく。これまで国家間の国境をめぐる幾多の戦争が起き、その都度国境は移動した。人びとは自らの意思とは関係なくそうした結果を甘受する以外になかったのである。

ところが地域から「国境」を眺めると、そこには中央にあって国境を考える視座とはまるで異なる原風景が見えることがある。中央から離れれば離れるほど、そこにはマージナルな世界が広がる。北方にあってその特徴はどのように描かれるのだろうか。それを引き出したい。

当シンポジウムでは、まず、北方において育まれた自然生態系の実勢(越境する自然)を北方4島にみる。それは少なくとも知床(世界自然遺産)に展開される生物生産性と生物多様性の非常に高い流氷南限地域生態系の延伸と特徴づけられる内容である。であれば、「地球に残された最後の秘境」とも称されるこの地域をどう保全するのかが問われることにもなる(大泰司報告)。

他方、文化もまた越境する(越境する文化)。越境するアイヌ文化の具体的な展開を千島アイヌの歴史的変転という観点(川上報告)及びその生活文化において環境との共生の点できわめて親和性の強い、アイヌの精神文化の観点から(北原報告)、それぞれ二人の論者に語ってもらう。